

# 梅雨期以降の「幸水」果実に対するナシ黒星病の感受性

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

## 1 部門名

果樹－ナシ－病害虫防除

## 2 担当者名 藤田剛輝、七海隆之

## 3 要旨

近年、「幸水」の収穫期の果実に黒星病の発病が問題となっていることから、梅雨期以降の果実感受性を調査した。その結果、福島県では満開後 50 日頃（平成 24 年 6 月 14 日頃）から 90 日頃（平成 24 年 7 月 24 日頃）の果実の感受性が高く、黒星病の重要防除時期であることを確認した。

また、満開後 80 日頃（平成 24 年 7 月 14 日頃）が感受性のピークとなること、満開後 100 日頃（平成 24 年 8 月 3 日頃）以降は感受性が低いことが明らかとなった。

- (1) 2020 年の時期別接種試験での発病果率は、満開後 51～91 日接種区で高く、1 果当たり平均病斑数は満開後 79 日接種区が多かった（図 1）。2021 年の接種試験での発病果率は、満開後 49～81 日接種区で高く、1 果当たり平均病斑数は満開後 81 日接種区が多かった（図 2）。また、両年ともに 1 果当たり平均病斑数は満開後 100 日頃以降は減少した。
- (2) 重要防除時期には、罹病部位の除去による菌密度の低減を図るとともに、薬剤散布に当たっては、散布間隔や降雨前防除に留意し、総合的な防除対策を徹底する。

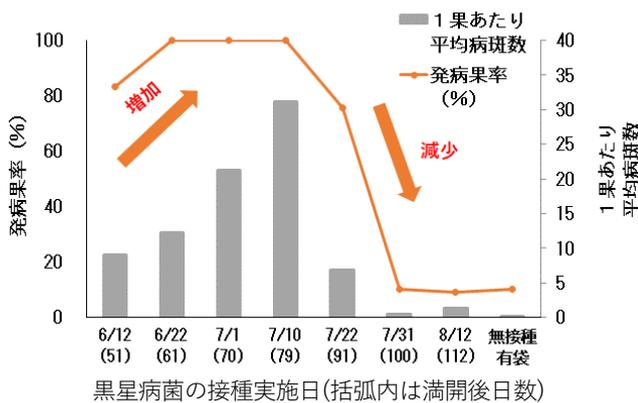


図1 「幸水」果実の黒星病に対する時期別感受性 (収穫時の2020年8月30日調査)

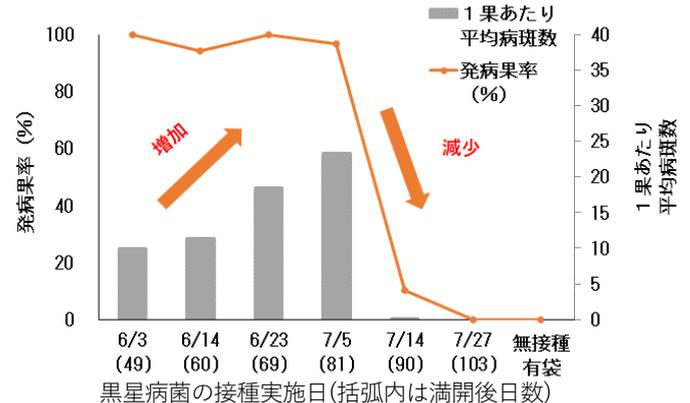


図2 「幸水」果実の黒星病に対する時期別感受性 (収穫時の2021年8月16～17日に調査)

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 重要な病害虫に対する防除技術の確立

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 梅本清作, ニホンナシ黒星病の発生生態と防除に関する研究, 千葉県農業試験場特別報告, 22, p. 44～45, 1993.